

〈文化学分野〉

授業科目名	担当教員名	学年	単位数	授業科目名	担当教員名	学年	単位数
表象文化史特論A	松友 知香子	1・2	2	北方文化史特論A	川上 淳	1・2	2
表象文化史特論B	松友 知香子	1・2	2	北方文化史特論B	川上 淳	1・2	2
言語特論A	濱田 英人	1・2	2	日本文学史特論A	田中 幹子	1・2	2
言語特論B	濱田 英人	1・2	2	日本文学史特論B	田中 幹子	1・2	2
異文化コミュニケーション特論A	久野 弓枝	1・2	2	比較文化特論ⅠA	張 偉雄	1・2	2
異文化コミュニケーション特論B	久野 弓枝	1・2	2	比較文化特論ⅠB	張 偉雄	1・2	2
身体文化特論A	瀧元 誠樹	1・2	2	比較文化特論ⅡA	小笠原はるの	1・2	2
身体文化特論B	瀧元 誠樹	1・2	2	比較文化特論ⅡB	小笠原はるの	1・2	2
図像学特論A	(本年度休講)	1・2	2	比較歴史特論ⅠA	高瀬 奈津子	1・2	2
図像学特論B	(本年度休講)	1・2	2	比較歴史特論ⅠB	高瀬 奈津子	1・2	2
日本文学特論ⅠA	(本年度休講)	1・2	2	比較歴史特論ⅡA	(本年度休講)	1・2	2
日本文学特論ⅠB	(本年度休講)	1・2	2	比較歴史特論ⅡB	(本年度休講)	1・2	2
日本文学特論ⅡA	田中 幹子	1・2	2	先史文化特論ⅠA	(本年度休講)	1・2	2
日本文学特論ⅡB	田中 幹子	1・2	2	先史文化特論ⅠB	(本年度休講)	1・2	2
日本文学特論ⅢA	荒木 奈美	1・2	2	先史文化特論ⅡA	瀬川 拓郎	1・2	2
日本文学特論ⅢB	荒木 奈美	1・2	2	先史文化特論ⅡB	瀬川 拓郎	1・2	2
日本語特論A	渡辺 さゆり	1・2	2	先史文化特論ⅢA	(本年度休講)	1・2	2
日本語特論B	渡辺 さゆり	1・2	2	先史文化特論ⅢB	(本年度休講)	1・2	2
日本史特論A	(本年度休講)	1・2	2	先史文化特論Ⅳ	千本 真生	1・2	2
日本史特論B	(本年度休講)	1・2	2	考古学専門実習	(本年度休講)	1・2	2
北方文化特論ⅠA	本田 優子	1・2	2	文化財の保存活用特論	(本年度休講)	1・2	2
北方文化特論ⅠB	本田 優子	1・2	2	文化学特論	南山 雅樹	1・2	2
北方文化特論ⅡA	(本年度休講)	1・2	2				
北方文化特論ⅡB	(本年度休講)	1・2	2				

〈地域経営学分野〉

授業科目名	担当教員名	学年	単位数	授業科目名	担当教員名	学年	単位数
企業文化の国際比較特論 A	汪 志平	1・2	2	マーケティング特論A	角田 美知江	1・2	2
企業文化の国際比較特論 B	汪 志平	1・2	2	マーケティング特論B	角田 美知江	1・2	2
事業創造論特論A	(本年度休講)	1・2	2	企業経営と財務諸表特論A	岩橋 忠徳	1・2	2
事業創造論特論B	(本年度休講)	1・2	2	企業経営と財務諸表特論B	岩橋 忠徳	1・2	2
地域活性化特論A	中山健一郎	1・2	2	情報科学特論A	伊藤 公紀	1・2	2
地域活性化特論B	中山健一郎	1・2	2	情報科学特論B	伊藤 公紀	1・2	2
地域経済学特論A	武者 加苗	1・2	2	地方自治特論A	武岡 明子	1・2	2
地域経済学特論B	武者 加苗	1・2	2	地方自治特論B	武岡 明子	1・2	2

教育課程と教員一覧 [特別演習]

令和4(2022)年度開講

〈文化学分野〉

授業科目名	担当教員名	学年	単位数	授業科目名	担当教員名	学年	単位数
表象文化史特別演習A	松友 知香子	2	2	北方文化特別演習ⅡA	(本年度休講)	2	2
表象文化史特別演習B	松友 知香子	2	2	北方文化特別演習ⅡB	(本年度休講)	2	2
言語特別演習A	濱田 英人	2	2	北方文化史特別演習A	川上 淳	2	2
言語特別演習B	濱田 英人	2	2	北方文化史特別演習B	川上 淳	2	2
異文化コミュニケーション特別演習A	(本年度休講)	2	2	比較文化特別演習ⅠA	張 偉雄	2	2
異文化コミュニケーション特別演習B	(本年度休講)	2	2	比較文化特別演習ⅠB	張 偉雄	2	2
身体文化特別演習A	瀧 元 誠樹	2	2	比較文化特別演習ⅡA	小笠原はるの	2	2
身体文化特別演習B	瀧 元 誠樹	2	2	比較文化特別演習ⅡB	小笠原はるの	2	2
日本文学特別演習ⅠA	荒木 奈美	2	2	比較歴史特別演習ⅠA	高瀬 奈津子	2	2
日本文学特別演習ⅠB	荒木 奈美	2	2	比較歴史特別演習ⅠB	高瀬 奈津子	2	2
日本文学特別演習ⅡA	田中 幹子	2	2	比較歴史特別演習ⅡA	(本年度休講)	2	2
日本文学特別演習ⅡB	田中 幹子	2	2	比較歴史特別演習ⅡB	(本年度休講)	2	2
日本語特別演習A	渡辺 さゆり	2	2	先史文化特別演習ⅡA	瀬川 拓郎	2	2
日本語特別演習B	渡辺 さゆり	2	2	先史文化特別演習ⅡB	瀬川 拓郎	2	2
日本史特別演習A	(本年度休講)	2	2	先史文化特別演習ⅢA	(本年度休講)	2	2
日本史特別演習B	(本年度休講)	2	2	先史文化特別演習ⅢB	(本年度休講)	2	2
北方文化特別演習ⅠA	本田 優子	2	2				
北方文化特別演習ⅠB	本田 優子	2	2				

〈地域経営学分野〉

授業科目名	担当教員名	学年	単位数	授業科目名	担当教員名	学年	単位数
企業文化の国際比較特別演習A	汪 志平	2	2	マーケティング特別演習A	角田 美知江	2	2
企业文化の国際比較特別演習B	汪 志平	2	2	マーケティング特別演習B	角田 美知江	2	2
事業創造論特別演習A	(本年度休講)	2	2	企業経営と財務諸表特別演習A	岩橋 忠徳	2	2
事業創造論特別演習B	(本年度休講)	2	2	企業経営と財務諸表特別演習B	岩橋 忠徳	2	2
地域活性化特別演習A	中山 健一郎	2	2	情報科学特別演習A	伊藤 公紀	2	2
地域活性化特別演習B	中山 健一郎	2	2	情報科学特別演習B	伊藤 公紀	2	2
地域経済学特別演習A	武者 加苗	2	2				
地域経済学特別演習B	武者 加苗	2	2				

※1 修了要件は32単位以上。専攻科目4単位を含め、1年次で20単位以上を修得すること。

※2 特別演習(修士論文の指導)を履修するためには、課程修了予定の前年度末までに20単位以上を修得していかなければならない。

講義開講時間

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては変更の可能性があります。

1講時	2講時	3講時	4講時	5講時	6講時	7講時
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	18:00～19:30	19:40～21:10

〈文化学分野〉

表象文化史特論 A・B	松友知香子	E·H·ゴンブリッジ(1909-2001)は、ウィーン大学に学び、以後ロンドンのウォーバーグ研究所で芸術研究を行った美術史家である。この授業では、彼の論文やエッセイ、講演をまとめた『棒馬考』を精読し、芸術のシンボルやメタファー解釈における心理学的・精神分析学的方法について考察を行い、欧米の表象文化を通して、国際理解力を高める。
言語特論A	濱田英人	本特論では、ことばと認識について知覚作用と認識作用の視点から考察する。具体的には知覚対象の認識から言語化に至る過程でどのような知覚操作が関わっているのかについて理解を深める。我々は、対象物を知覚することそれ自体が網膜から脳内に取り込まれることで表現(representation)が生じ、それを言語化の対象としている。このことから言語は脳内現象であり、知覚対象の言語化には認知主体の一定の認知処理が必然的に関与している。その認知処理のメカニズムを明らかにすることによって言語の本質について理解を深める。
言語特論B	濱田英人	本特論では、前期の基礎研究を踏まえて、言語話者の事態認識の在り様と言語化の関係を具体的な言語現象を考察することによって明らかにする。 具体的には、言語話者が基本的な認知能力を活性化して世界をどのように切り取っているかが個別言語を特徴付けていることを日本語と英語の言語現象を対照的に考察することによって明らかにする。
異文化コミュニケーション特論 A・B	久野弓枝	日本に定住を志向する外国人は増加傾向にあるが、受け入れ政策は来日する外国人にとって十分とは言えない。この授業では日本語を第二言語とする人びとに対する日本語サポートについて、多文化共生の視点から考えてみたい。さらに、日本語のサポートについて理解を深めるため、日本語教育における質的研究方についても検討する。
身体文化特論 A・B	瀧元誠樹	演出家であり教育者であり、思想家でもあった竹内敏晴氏が語ってきた「ことば」が、「竹内敏晴の『からだと思想』」というセレクションに編集されて2013年9月から2014年6月にかけて刊行された。哲学者である木田元の言葉によれば、竹内のそれは『『からだ』によって裏打ちされた『ことば』』だという。戦前から戦後の動乱期、さらに学生運動や「アングラ」、東西冷戦の終結とバブル崩壊といった激動の社会変化の中で、私たちのからだとことばはどうなっていたのかを語る竹内の「ことば」に耳を澄ましてみたい。
日本文学特論II A・B	田中幹子	『源氏物語』の各巻の内容を把握した上でその巻の核となる歌を取り出し分析する。
日本文学特論III A・B	荒木奈美	最新の教育事情を取り入れながら、「5年先の子どもたちが求める教育を考える」をテーマにした国語教育の方法を問う。2022年度はオランダのオルタナティブ教育の成功例に学び、近隣の中高校に「学びで若者がつながる」場を実際に作り、国語に関する授業を行うことを目標としている。教科書を使わざる体験の中で国語を学ぶ欧州の教育実践から、日本の教育に応用可能な授業の方法を模索する。
日本語特論 A・B	渡辺さゆり	近世の国学者・本居宣長の『詞八衛』は動詞活用に関する文法書である。五十音図の各行ごとに活用表を掲げ、また必要な語について古典作品中の証例を記載し説明を施している。本講義ではくずし字で書かれた『詞八衛』の序文・本文を読みながら、宣長の人となりや『詞八衛』の概略について学習する。

北方文化特論ⅠA・B	本田 優子	日本及び日本に関連の深い諸国の先住民族政策を比較し、先住民族に係る法政策の特殊性と普遍性を理解することにより、民族共生社会の実現に深く貢献できるようになることを目的として、アメリカ合衆国におけるインディアン法制、ハワイ先住民法制及び台湾の原住民族法制に関する和文及び英文文献を精読し、日本のアイヌ施策推進法等と比較して、その特殊性と普遍性を内在的に理解するように努める。
北方文化史特論 A・B	川上 淳	北方古代史について、最新の研究成果による論文・著書を講読し討論する。具体的には北海道・東北地方・東部ユーラシアの「北の財」の実態と、歴史的・文化的意義を最新の古代史・考古学研究の成果から実証的に検討する。
日本文学史特論 A・B	田中 幹子	平安文学にみられる社会制度・文化・政治などを作品の中から具体的にピックアップし、歴史的事実と合わせて読むことで、作者の意図を考察します。
比較文化特論ⅠA	張 偉雄	比較文化という学問は、一国一民族の文化を越えた文化事象を考察するものである。本講義は近代日中の文化人を対象に彼らは如何にして自文化を越え異文化に出ていくのか、そして異文化の中で如何に行動をしていたのかを考察してみる。考察の対象は彼らの残された作品である。これらの作品を比較文学文化の手法で解説し、比較文学文化研究の対象、方法、目的、および研究者のあるべき姿勢について論じる。(中国語の読解力が必要)
比較文化特論ⅠB	張 偉雄	比較文化研究の方法の一つとして「翻訳研究」がある。これは文化間の交流、受容、変容を考察する有効な手段である。翻訳の変容や「曲解」を指摘することによって、異文化に位置する原作者、翻訳者、或いはその両文化に位置する読者層に対する認識を深めて行く事ができ、異文化理解につながるものである。本講義ではイギリスの東洋学者、翻訳者であるArthur Waleyを中心に、翻訳を通して異国の文化が受容され、変容されていく実態を分析してみる。 (英語・中国語の読解力が必要)
比較文化特論ⅡA・B	小笠原はるの	この講義では、人と人との互いに理解しあうためのコミュニケーションの手法として、ナラティブ研究について学ぶ。わたしたち人間にとってナラティブ(物語)は、それがどれだけ傷つきやすく不完全なものであっても、わたしたちがお互いにもっとも近づきあえる可能性として存在する。 人が生きていく中で、わたしたちは人生のある部分については、それを生きてはいるが、それを経験してはいない。というのも、経験するためには語りの形式が必要だからである。その語りは、多くの場合、それを語ろうとすることを妨げる力、例えば、聞き手との応答関係、トラウマとなる経験の深さ、共同体の中での語りの経験知などによって変容する。 人々が語ろうとしている物語はどのような物語か、またその語りを妨げようとしているものは何かを問うことで、語り手は、それまでの自分のものといえなかった経験を自分のものだということができるようになり、さらに人々が互いの物語を知ることによって、人と人、人と社会とのつながりを生み出すことができるようになる。各自の問題意識を持ち寄り、ナラティブの諸相や揺らぎ、可能性についての考察を深めたい。
比較歴史特論ⅠA・B	高瀬 奈津子	隋唐時代は、中国史上、政治・社会経済・文化の面で最も華やかだった時代である。本授業では、東部ユーラシア地域における隋唐王朝の位置づけを理解し、隋唐時代の中国社会・文化の多様性を理解することを目的に、隋唐史研究の古典的論考である陳寅恪著『唐代政治史述論稿』を読み、あわせて引用されている史料を分析しながら、歴史研究の手法を学ぶ。

教員紹介



地域・文化学研究科 文化学専攻 教授
久野 弓枝 Kuno Yumie

担当科目 異文化コミュニケーション特論A・B

出身: 北海道小樽市出身
 学位: 北海道大学大学院教育学研究科修了(教育学博士)
 専門: 日本語教育・異文化間教育
 略歴: 青年海外協力隊日本語教師(スリランカ)
 小樽商科大学、北星学園大学等で非常勤講師、札幌大学准教授

01 プロフィール

札幌大学では留学生への日本語教育と日本語教師養成を行っています。留学生への日本語教育では、留学生が大学生活で困らないよう学部授業のサポートを中心に様々な学習活動を行っています。

日本語教師養成課程では日本語を第二言語とする人々を取り巻く社会の課題、異文化コミュニケーション、日本語の教え方などを学生と一緒に検討しています

02 研究分野紹介

地域の日本語教室について研究しています。地域の日本語教室は大学や日本語学校とは異なりボランティアの人々が担い手となって運営しています。そこには、様々な学びがあり地域によっても異なります。

一方で、日本語を学習したくても日本語教室が近隣に存在せず、言語学習の権利が保証されていない人々もあります。この問題を解決するには時間がかかりますが、地域の日本語教室で起きている学びのプロセスを検討しながら、どのようなサポートができるのか、研究を深めていきたいと思います。

03 地域・文化学研究科の特色

地域、文化学の各分野(経済学、経営学、歴史、異文化コミュニケーション、スポーツ史など)を皆さんのがん心に応じて学ぶことができ、多角的な視点から研究テーマについて検討することができます。また、少人数制であるため、個々の事情に即した履修形態が可能です。

04 大学院生活で学んでほしいこと

修士論文を完成させるプロセスを大切にしてもらいたいと思います。まず、論文やテキストを読んで情報を取捨選択し統合する能力を養いましょう。次に、研究手法についても学び自分が行った調査について、詳しく説明できるようになります。

大学院では研究を通じて色々な人の出会いもあります。人との対話によるコミュニケーションを大切にして視野を広げていってもらいたいです。

先史文化特論IIA・B	瀬川 拓郎	考古学・人類学・民族学・生態学などを横断し、アイヌ民族の歴史にアプローチするアイヌ民族考古学の理論と方法を理解することで、国際的な社会文化活動や地域振興に寄与貢献する専門職・指導者に必要な専門的知識と考察力を習得する。
先史文化特論IV	千本 真生	この授業では、欧米考古学研究の歴史について要点をおさえながら、ヨーロッパのバルカン地域における先史文化について学ぶ講義形式の授業である。時代の範囲は旧石器時代から青銅器時代までを対象とする。アジアと内陸ヨーロッパのあいだに位置するバルカン半島では、独自の先史文化が花開いた。ヨーロッパ先史研究においてとくに重要な歴史的出来事に、農耕牧畜の導入、牧畜集団の移動と拡散、黄金文明の繁栄、古代都市文明の波及などが挙げられる。授業では最新の調査成果も紹介しながら、ヨーロッパ古代社会の基礎をなすバルカン先史文化について講ずる。
文化学特論	南山 雅樹	本講のテーマは、「文化の融合」です。音楽を鑑賞し、その成り立ちを分析・紹介します。主としてジャズ、クラシックを取り上げ、その歴史的変遷、どのような文化が融合して生まれたのかを検証し、ポピュラー音楽全般への影響についても考察します。

〈地域経営学分野〉

企业文化の 国際比較特論 A・B	汪 志平	社会の中で企業はどうあるべきかどう行動すべきかについて、文化的なアプローチと国際的なアプローチを用いて企業倫理を捉え、21世紀のあるべき企業像を理解する。さらに、現代の企業倫理とコーポレート・ガバナンスについて国際比較を通じ理解を深める。
地域活性化特論 A・B	中山 健一郎	本授業では、地域経営に焦点を当て、地域の活性化とは何か？またどうあるべきかについて考察する。特にSDGsやCOVID-19に起因する新北海道スタイルに対して地域経営はどう変化し、どう対応すべきなのかを考察する。特に、本授業は生産管理論、品質管理論、希望学入門を取り入れたレジリエンス、ニューノーマル、パラダイムシフトの視角から考察する。
地域経済学特論 A・B	武者 加苗	本講義では、地域経済学、都市経済学、財政学、農業経済学とその関連・発展分野を、近代経済学の立場から学ぶ。同じ通貨・法制度を持つ一国内であっても、行政区域や輸送コストの存在を考慮すると、その経済状況は一様ではない。一般に、地域経済ではヒト・モノの移動が容易であり、国際経済より開放的であると言われる。これらの学びを通じて、基礎的な地域経済のモデル及びその考え方を修得する。なお、テーマは参加者の関心を考慮して対応する。
マーケティング特論 A・B	角田 美知江	本講義では、文献の輪読を通じて、マーケティングの概念を理解し、研究への分析視点を得ることを目的としています。また、輪読を通じて得た知見を活かし、地域の中小規模企業におけるマーケティングについて議論します。また、文献の輪読、事例の議論、プレゼンテーションを通じて、理解を深めていきます。
企業経営と 財務諸表特論 A・B	岩橋 忠徳	企業によって作成および開示される財務諸表は、各種の利害関係者が企業経営に関連する様々な意思決定を行ううえで非常に有用である。財務諸表に含まれるB/S、P/L、C/F、S/Sといった各財務表の計算構造を学んだうえで、それらの財務表が作成ならびに開示される根拠となる諸会計基準について考察する。また、企業経営において財務諸表を実践的に活用するため、有価証券報告書等を用いた経営分析の理論や技法についても考察する。
情報科学特論 A・B	伊藤 公紀	近年、AI(Artificial Intelligence, 人工知能)が発達し、社会の様々な分野でその利用が求められつつある。コンピュータに問題解決をさせるためには、その解法をアルゴリズムとして表現しなければならない。AIも同様である。身の回りにある膨大なデータから情報を取り出す統計的手法や、情報をコンピュータが扱うことのできる知識とするためのアルゴリズムについて理解を深めていく。
地方自治特論 A・B	武岡 明子	地方自治体は私たちにとって最も身近な「政府」であり、様々な行政サービスを提供する一方で時に私たちの権利を制限し義務を課す権力的な存在でもある。分権型社会と言われて久しいが、複雑多様化する行政需要にどう対応するか、国との役割分担のあり方、首長のリーダーシップ、議員のなり手をどう確保するかなど、自治体を取り巻く環境は年々、厳しさを増している。本特論では、地方自治が直面する現状と課題について学び、その改革方策について検討する。

【平成15(2003)年度】

- ・長崎原爆爆心地・浦上の記憶をめぐる考察
- ・田上義也の戦後期の建築活動
—ユースホステルと北海道銀行の建築を中心として—
- ・中村正直の異文化論考
- ・日中両国における端午節の変容に関する考察
—七・八世紀を中心に—
- ・北海道の細石刃石器群における黒曜石露頭直下での石器製作技術
—白滝村幌加沢遺跡遠間地点の検討—
- ・メディアと寺山修司
—挑発するテクストと読者論のはざまに—
- ・声ニラヌ声 トリン・T・ミンハ論

【平成16(2004)年度】

- ・社会的監視の系譜学的考察
～監視社会論の研究方法についての試み～
- ・北海道における石刃鎌石器群の適応戦略
—黒曜石石材の獲得とその消費過程—
- ・環状土籬の研究
—属性の系統・構築技術・分節構造を中心に—
- ・北海道における細石刃文化前半期の石器群の様相
—新たなる技法類型をもとにした細石刃製作技術の一考察—
- ・遺骨発掘返還運動に関する研究
—北海道朱鞠内の事例を中心に—
- ・源氏物語における權威
～柏木の人物論をめぐって～
- ・『かげろふ日記』における引歌からみる道綱母
—主題形成との関連から—
- ・ギュスター・モローのサロメと仏教美術
- ・コミュニケーションとしての演奏
—複合的音楽意味への眼差し—
- ・北東アジアにおける海上安全保障問題に関する一考察—日本・韓国を中心とする事例として—
- ・子母沢寛の作品における周縁化された人物の近代史
- ・日本における「肉」と「肉食」考
- ・国會議事堂の比較研究の試み
- ・旧石器時代における石材獲得戦略の研究
—特に北海道西部の貞原原産地について—
- ・韓国映画の現在
—『ブランザーフッド』を切口にして
- ・戦略としてのテレビシーンと広告としての戦争
—湾岸戦争時の「油まみれの水鳥」と「ナイラ証言」—
のような映像シーンはどのようにして生まれたのか
- ・広告映像における表象行為とアイデンティティをめぐる政治学
- ・日中蚕神物語の文化形態に関する比較文化的考察
蚕神物語における日中文化の相違点と共通点について

【平成17(2005)年度】

- ・『日本靈異記』と經典の関連性について
- ・人形アニメーションにおける新たなアリティの誕生とその可能性
- ・火葬場のデザインに関する一考察
- ・「障害」から「文化」へ
ろう者の手話とその思考についての考察
- ・内山完造の異文化体験に関する研究
- ・源氏物語の人物造型に見られる美意識
—紫上像の比喩表現を通して—
- ・孫晋泰の『朝鮮民諱集』研究
—中村亮平の『朝鮮童話集』との比較・分析—
- ・カレル・タイゲ
チェコモダン・アヴァンギャルドと引用の魔術

【平成18(2006)年度】

- ・朝鮮近代史における急進的開化派についての一考察
～開化派の誕生から甲申政変まで～
- ・歴史教科書における「正しさ」にひそむ問題
—教員の視点と教科書記述の相同意と差異—
- ・「オシリ神」信仰の担い手とその展開
—近代北海道を事例として—
- ・日露戦争への道程の一考察
—日英同盟と日露交渉を中心に—
- ・親日派—考察 宋秉畯の生涯とその時代—
- ・カタカナ語使用の一側面からの考察

—カタカナ語の役割とカタカナ語教育—

- ・郭沫若の異文化体験と受容
—『女神』の創作から見る—
- ・植民地期朝鮮の「プロ文学」に関する一考察
～1926年から1938年までの朝鮮人作家の日本語評論作品や朝鮮における『讀書大衆の状況』を手がかりに～
- ・異文化の人間関係
—在中日系合併企業における職場観の比較
- ・非母語創作の意味と属性
—アメリカにおける中国系新移民作家ハ・ジンを読んで—
- ・岡千仞の中国における異文化体験について
- ・北海道繩文時代の動物意匠遺物
—表象されたモノからみえる人と動物とのかかわり—

—非母語話者のために—

- ・受身表現における日・越対照研究
- ・両言語の教育の為に
- ・芥川龍之介の中国における異文化体験
—『支那游記』を中心に
- ・ホジエン族におけるクマ送り儀礼の研究
- ・『詞八衢』における証例の典拠についての考察
- ・再祚した女帝の比較

【平成24(2012)年度】

- ・復興における被災観光地の役割
—松島と周辺地域を事例として
- ・日本語との比較における中国語の数量表現
—人間の体を表す言葉を用いた量詞を中心に

【平成25(2013)年度】

- ・北海道東部地域におけるアイヌの伝統的葬送儀礼
—更科源蔵資料『コタン探訪帳』に基づいて—
- ・道北・道東部における擦文土器の比較研究
～羽幌町チライベツA遺跡の資料の検討をもとに～
- ・ゼロ世代～10年代を生きる若者についての一考察
—朝井リョウ『何者』を通じて明らかになる若者像—
- ・中国語の「的」と日本語の「の」の比較対照研究
—連体修飾助詞としての用法を中心に—
- ・授受本動詞の日中対照研究
—日本語「もらう」の中国語の対応問題を中心に—
- ・夏目漱石の中国觀についての考察
—『満韓ところどころ』を中心に
- ・アイヌ社会におけるオットセイ獣の変遷
—蝦夷地と北オホ諸國を中心に—

【平成26(2014)年度】

- ・現代の名づけについて

【平成27(2015)年度】

- ・よしもとばなな作品に描かれた「人間」に属する人々のつながりについて—短編集『さきちゃんたちの夜』に描かれた人間関係を中心に
- ・芥川龍之介と『聊齋志異』—その受容と創造
- ・夏目漱石『こころ』論—罪意識を中心に—
- ・蝦夷録の交易と紋様の年代観
- ・ナラティブとリフレクションによる「当事者」の自己発見
- ・アイヌのシカ認識—口承文芸を中心に—
- ・アイヌ文化におけるアイヌの役割

【平成28(2016)年度】

- ・ソ連軍の南千島進駐と残留島民

【平成29(2017)年度】

- ・伊能大図蝦夷地部分における伊能と間宮の関係
- ・宮澤賢治童話における割り切れない感情とそこから照射された読者自身の思考形態の問題
- ・戦前期北海道と樺太における土工部屋の歴史的位置づけ ～1905年～1935年を中心に～
- ・近世後期後志地方におけるアイヌと和人の関係について
—ヨイチ・ヲタツツ・イソヤを例に—
- ・月寒の忠魂納骨塔一步兵第二十五聯隊と月寒の人々—

【平成30(2018)年度】

- ・「自己」とは何かを問うこと
—<使者>から見える内的な「自己」への問い—

【令和元(2019)年度】

- ・前期幕領期のアイヌ風俗改変における最上徳内の影響
- ・『源氏物語絵巻』について
—『源氏物語』に込めた絵師の思いを探る—
- ・パレエ作品『春の祭典』の魅力とは何か
—ニジンスキ、ペジャール、バウシュの作品に着目して—

【令和3(2021)年度】

- ・日本デジタルゲーム論考-JRPGにおける「フィクション」と「リアリティ」の特性
- ・中国におけるCVSの発展—民族系CVSと日系CVSの比較を中心に—

【平成23(2011)年度】

- ・オノマトペの音と意味の関連性について